

JASDAQ

証券コード：9439

BIG GROUP

Financial Report 2006. 7. 1 - 2007. 6. 30

株式会社ビーアイジーグループ

〒107-0062 東京都港区南青山3-3-3 リビエラ南青山ビルB館6階

TEL. 03-5411-7222 FAX. 03-5411-7223

<http://www.big-group.co.jp/>



Business Review

永続的な成長を目指して

業界トップブランドを目指して、「モッズ・ヘア」は積極的にブランド価値の向上を目指します。

そして、当期より新たに自社ブランドとして「ジョリーブティック」がデビューしました。

CONTENTS

はじめに	2	連結財務諸表	9・10
モッズ・ヘアジャパングループ	3・4	単体財務諸表	11
ジョリーブティック	5・6	株式の状況	12
会社の経営の基本方針	7	会社概要	13
会社の対処すべき課題	7	グループ会社	13
当期の概況	8	株主メモ	14

FASHION & BEAUTY

はじめに

株主の皆様には、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、平素より格別のご支援ご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

ここに当社第18期の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当社は、1999年よりジャスダック市場に上場し、株主の皆様にも支えられ、2007年6月期も事業活動に邁進して参りました。

現在における当社グループの事業活動は、テーマが「ファッション」&「ビューティー」であります。

当社は純粋持株会社となり、スピードのある持株会社経営を実現するために大胆な組織改革を行いました。

今までの代理店ビジネスから変貌し、現在では、美容室運営の「モッズ・ヘア」と、20代の女性をターゲットとしたアパレル事業運営の「ジョリーブティック」が当社の自社ブランドとなっております。

まず「モッズ・ヘア」につきましては、かねてより課題として掲げておりました収益体質への改善にむけての施策が浸透し、経営の合理化を達成することができました。その結果、安定的に収益を伸ばすことに結びついております。

この安定的な収益性を基盤にして、更にブランド力の向上を図り、積極的な事業拡大に打って出ることにより、より一層の増収増益を見込んでおります。

次に、「ジョリーブティック」におきましては、昨年10月1日の神宮前b6フラッグショップオープンを皮切りに、上半期4店舗、下半期4店舗と順調に出店することができました。

特にルミネ、プランタン、オーパといった人気の高いデベロッパー様からの期待を頂いております。

また、メディアにおいてもViVi、Sweetをはじめ多くの雑誌媒体様からもご支援いただき、1年たたずに露出度も高まっております。

Eコマースにおいても東京ガールズコレクション出展により順調に推移しており、2期目を迎えることにご期待いただきたいと思います。

それぞれのグループ会社において、意思決定のスピードアップ、経営の効率化を実現し、当社グループ全体の企業価値の一層の向上を図って参ります。今後とも格別のご理解とご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

2007年9月

代表取締役社長

青山 洋一



世界的有名ブランドがもっと輝けるために…



mod's hair
PARIS

モッズ・ヘアジャパングループはこの2年間で大きく生まれかわり、恒常的利益体質へと変革を遂げました。
そして、更なる飛躍に向けての取り組みを実行へ移します。



モッズ・ヘアジャパングループはこれまで掲げてきた再生への課題を着実にこなし、新たなステージに立つべく基礎体力作りに励んで参りました。

地味で遠回りをしているように見えますが、これが大変重要なステップであったと考えております。そして、これからモッズ・ヘアジャパングループの真価が問われる時期です。これまで培ってきた安定的な収益性を基盤に、将来のアジア展開まで視野に入れた積極的な経営へ変換して参ります。

そのために以下を新たな重要テーマに掲げ、これらをひとつひとつ確実にクリアしていくことにより、恒常的な増収増益を実現し、日本を代表するパワーブランドのひとつとしてファッションシーンをリードして参ります。

■活動計画

- ・首都圏にターゲットを絞った直営店の新規出店
- ・全国主要都市へのBS店の出店促進スキームの導入
- ・モッズ・ヘアのインターナショナル新仕様への既存店リニューアル

- ・ITを活用した戦略的PR活動の強化

流行の原点はジョリーブティックから発信します。



©TOKYO GIRLS COLLECTION by girlswalker.com 2007 SPRING/SUMMER

Jolly Boutique

リアル店舗とEコマースとメディアをミックスする、「ITアパレルブランド事業」として、
全国主要都市で8店舗をオープンいたしました。



事業展開において、アパレル同業他社からも注目を浴び、新聞、雑誌、テレビ等、マスコミ関係への露出も高まってきました。

この秋より、有名ファッションビルからのオファーもいただき、フランチャイズを含め、これまでの8店舗に加えて新しく5店舗をオープンすることも決まり、Eコマース事業としても、集客力と実績のあるコンテンツ先延べ4社との契約に至りました。

プロデュースをしました1期目は、ブランドインパクトを追求するため、広告宣伝と新規出店でプロデュースを中心に営業活動を行いました。そして2期目を迎えた2007年7月以降は、経営管理面の強化を図り、活動計画を遂行させ、大幅な増収・増益を目指して参ります。

■活動計画

- ・直営3店舗/FC店舗2店舗/卸売店舗30店舗を計画
- ・「ViVi」「Sweet」「GLAMOROUS」等、人気雑誌媒体への継続的な露出

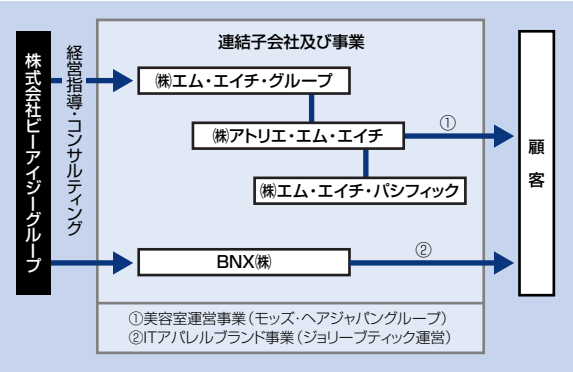
- ・Eコマース事業にて、集客力と実績のあるコンテンツ会社との取引契約増加
- ・ファッションショーイベントの出展
「東京ガールズコレクション」「神戸コレクション」

当社グループは、「物心共に皆ビッグに、皆ハッピーに」を経営理念に掲げ、「変化」「スピード」「元気」の社是を軸としております。当社を通じて関係する株主・お客様・取引先・社員が共に喜びを享受し、将来にわたり大きく成長できることを当社の定義として、人々のより豊かな生活や心の形成に貢献することを、役員及び社員が共有し、日々の経営に取り組んでおります。

美容室運営事業におきましては、個人事業者を含め競合が多数存在する業界であること、新技術・新製品が相次いで登場し、これらへの対応が遅れた場合、競合他社に対する競争力の低下を招く可能性があることから、効率的な宣伝広告戦略の実施、優秀な人材の確保・教育によるサービス品質の向上といったバランス経営が求められます。また、更なる利益の拡大のために、より収益性の高い商品・サービスの開発と事業モデルの開始を検討してまいります。

ITアパレルブランド事業におきましては、話題性や独自性を追求するブランドに消費者が共感しつつある今日、更なるブランドイメージの確立と競合他社にない独自性を発揮することが重要であると認識しております。このため、全国主要都市へのリアルショップの出店と多様なメディアを利用した話題性の強化、他ブランドにない新しさの追求を目的とした宣伝広告の積極展開を行うことにより、一時的にコストの増加を見込んでおります。

以上のとおり、当社グループは、複数の事業を各事業に特化した子会社が運営する持株会社組織となっており、今後既存事業の拡大に加え、会社新設や企業買収などによる新たな事業への参入を検討してまいります。このため、将来の資金調達に向けた更なる財務体質の改善と人材の強化が課題であります。



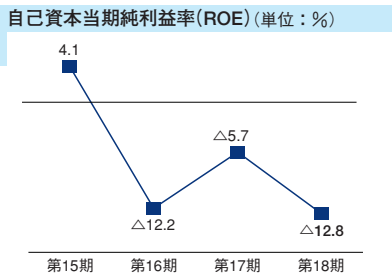
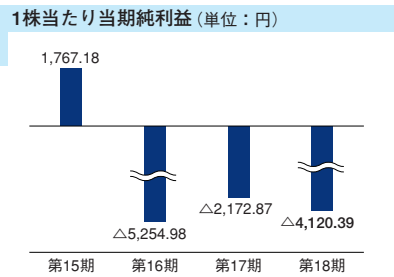
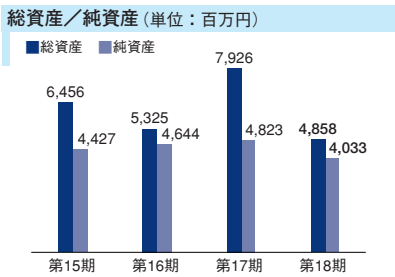
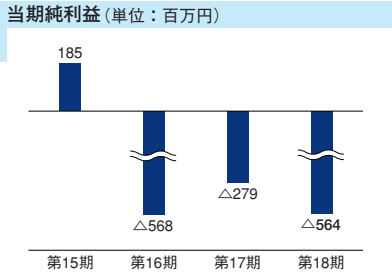
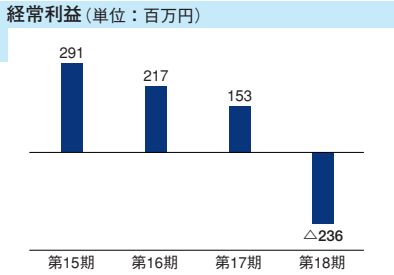
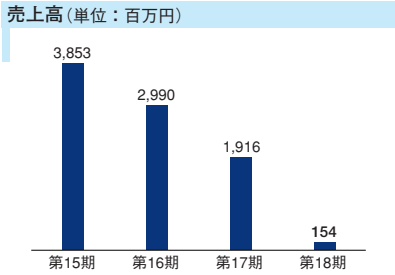
当連結会計年度におけるわが国の経済は、個人消費に弱さが見られるものの、輸出企業を中心とした企業収益の良化、設備投資の増加、雇用環境の改善が進み、景気は緩やかな回復基調が続きました。

しかしながら、原油価格の高騰や期後半に米国経済が弱含みになったこと、国際情勢の不安定等により、先行きについては不透明な状況にあります。

このような経済環境のもと当社は、今期より純粋持株会社に移行し、戦略と事業の分離を行いました。当社は企業グループ全体の戦略の発動と経営管理・リスクマネジメントを行い経営効率を向上させること、迅速なグループ企業構造の変革を実施してまいりました。子会社につきましては「ITとファッション&ビューテ

ィー」をテーマとし、今期より新たに「ITアパレルブランド事業」を開始いたしました。「ITアパレルブランド事業」、「美容室運営事業」、「移動体通信サービス事業」の3事業を柱に今期は事業展開を行って参りました。また事業シナジーが薄い事業については売却・統合し、経営資源の集中と効率化を図りました。このような経営戦略転換のなか、マーチャント・バンキング事業の廃止に伴い、今後の事業展開に向けた財務体質強化の一環として投資有価証券の整理を進めておりますが、一部の投資有価証券に売却損が発生したことに加え保有する投資有価証券に株式評価損が発生したこと、また回収の遅れが見込まれる一部の貸付金に対し貸倒引当金を計上いたしました。

■財務ハイライト(単体)



■ 連結貸借対照表(要旨)			(単位：千円)	
科 目	当 期 2007/6/30現在	前 期 2006/6/30現在		
資産の部	5,410,719	9,901,960		
流動資産	2,689,737	4,713,604		
固定資産	2,720,981	5,188,356		
有形固定資産	353,144	1,368,207		
無形固定資産	1,138,299	1,273,697		
投資その他の資産	1,229,537	2,546,451		
負債の部	2,125,988	5,673,633		
流動負債	745,142	2,551,242		
固定負債	1,380,846	3,122,390		
純資産の部	3,284,730	4,228,327		
株主資本	3,225,862	4,129,699		
資本金	2,499,447	2,499,447		
資本剰余金	2,100,639	2,372,647		
利益剰余金	△1,372,454	△742,101		
自己株式	△1,769	△294		
評価・換算差額等	692	29,031		
その他有価証券評価差額金	692	29,031		
新株予約権	296	—		
少数株主持分	57,879	69,597		
負債純資産合計	5,410,719	9,901,960		

■ 連結損益計算書(要旨)			(単位：千円)	
科 目	当 期 2006/7/1～2007/6/30	前 期 2005/7/1～2006/6/30		
売上高	4,821,988	4,941,497		
売上原価	3,626,194	3,569,833		
売上総利益	1,195,793	1,371,663		
販売費及び一般管理費	2,039,452	1,617,349		
営業損失	△843,658	△245,686		
営業外収益	22,498	186,860		
営業外費用	115,588	185,797		
経常損失	△936,748	△244,622		
特別利益	976,374	1,851,634		
特別損失	808,588	2,040,147		
税金等調整前当期純損失	△768,962	△433,135		
法人税、住民税及び事業税	184,146	604,766		
過年度法人税等戻入額	△333,432	—		
法人税等調整額	56,381	△105,373		
少数株主利益	30,926	—		
少数株主損失	—	11,309		
当期純損失	△706,984	△921,218		

■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)			(単位：千円)	
科 目	当 期 2006/7/1～2007/6/30	前 期 2005/7/1～2006/6/30		
営業活動によるキャッシュ・フロー	△387,893	△840,811		
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,935,113	△2,677,901		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,986,069	2,626,044		
現金及び現金同等物に係る換算差額	252	855		
現金及び現金同等物の増減額	△438,596	△891,811		
現金及び現金同等物の期首残高	2,438,121	3,329,933		
現金及び現金同等物の期末残高	1,999,524	2,438,121		

■ 連結株主資本等変動計算書(2006/7/1～2007/6/30)									(単位：千円)	
	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	新株 予約権		
前期末残高	2,499,447	2,372,647	△742,101	△294	4,129,699	29,031	29,031	—	69,597	4,228,327
当期変動額										
欠損填補による 資本剰余金の取崩し		△76,630	76,630							
剰余金の配当		△68,983			△68,983					△68,983
当期純損失			△706,984		△706,984					△706,984
自己株式の取得				△127,869	△127,869					△127,869
自己株式の消却		△126,394		126,394						
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						△28,338	△28,338	296	△11,717	△39,759
当期変動額合計	—	△272,008	△630,353	△1,474	△903,836	△28,338	△28,338	296	△11,717	△943,596
当期末残高	2,499,447	2,100,639	△1,372,455	△1,769	3,225,862	692	692	296	57,879	3,284,730

■ 第19期の連結業績予想(2007/7/1～2008/6/30)			
	売上高(百万円)	経常利益(百万円)	当期純利益(百万円)
中間期	1,700	△75	△165
通 期	3,430	△150	△325

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期)【連結】△2,443円77銭 (注) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

単体財務諸表

■ 単体貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科 目	当 期 2007/6/30現在
資産の部	4,858,912
流動資産	878,210
固定資産	3,980,702
有形固定資産	34,534
無形固定資産	9,308
投資その他の資産	3,936,859
負債の部	824,966
流動負債	24,966
固定負債	800,000
純資産の部	4,033,945
株主資本	4,033,634
資本金	2,499,447
資本剰余金	2,100,639
利益剰余金	△564,683
自己株式	△1,769
評価・換算差額等	15
その他有価証券評価差額金	15
新株予約権	296
負債純資産合計	4,858,912

■ 単体株主資本等変動計算書 (2006/7/1～2007/6/30)

(単位：千円)

	株主資本								評価・換算差額等		新株 予約権	純資産 合計		
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金			評価・換算 差額等合計	
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金								利益 剰余金 合計
						別途 積立金	繰越利益 剰余金							
前期末残高	2,499,447	1,972,647	400,000	2,372,647	15,150	121,700	△213,480	△76,630	△294	4,795,169	28,114	28,114	—	4,823,284
当期変動額														
準備金の取崩し		△1,300,000	1,300,000											
剰余金の配当			△68,983	△68,983						△68,983				△68,983
欠損填補による 資本剰余金の取崩し			△76,630	△76,630			76,630	76,630						
当期純損失							△564,683	△564,683		△564,683				△564,683
自己株式の取得									△127,869	△127,869				△127,869
自己株式の消却			△126,394	△126,394					126,394					
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）											△28,099	△28,099	296	△27,803
当期変動額合計	—	△1,300,000	1,027,991	△272,008	—	—	△488,052	△488,052	△1,474	△761,535	△28,099	△28,099	296	△789,338
当期末残高	2,499,447	672,647	1,427,991	2,100,639	15,150	121,700	△701,533	△564,683	△1,769	4,033,634	15	15	296	4,033,945

■ 単体損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科 目	当 期 2006/7/1～2007/6/30
売上高	154,152
売上原価	16,569
売上総利益	137,583
販売費及び一般管理費	284,282
営業損失	△ 146,699
営業外収益	11,570
営業外費用	100,994
経常損失	△236,123
特別利益	145,903
特別損失	743,214
税引前当期純損失	△833,434
法人税・住民税及び事業税	△268,750
当期純損失	△564,683

株式の状況

■ 発行可能株式総数 400,000株

■ 発行済株式の総数 133,064株

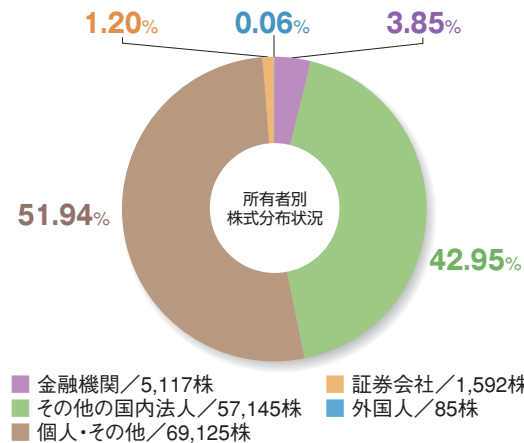
(注) 2007年5月31日取締役会決議に基づき、2007年6月15日に自己株式5,010株の消却を行い、発行済株式の総数が5,010株減少しております。

■ 株主数 6,381名

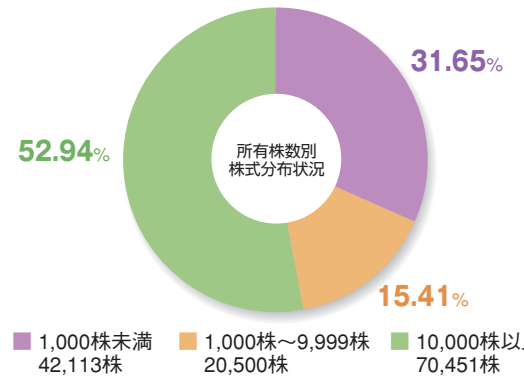
■ 大株主(上位8名)

株主名	所有株式数(株)	出資比率(%)
有限会社山洋	36,290	27.28
青山 洋一	22,161	16.66
Oakキャピタル株式会社	12,000	9.02
アセット・インベスターズ株式会社	5,000	3.76
ナレッジカンパニーファンド	2,500	1.88
株式会社山陰合同銀行	2,500	1.88
青山 和男	2,081	1.56
林 勝	1,606	1.20

■ 所有者別株式分布状況



■ 所有株数別株式分布状況



会社名	株式会社ビーアイジーグループ	役員	代表取締役社長	青山洋一
設立	1990年4月		取締役	佐藤文彦
資本金	2,499,447千円		取締役	勝部日出男
本社	東京都港区南青山3-3-3リビエラ南青山ビルB館6階		取締役	井谷浩二
代表電話	03-5411-7222		取締役	鍋谷勝文
事業内容	持株会社経営		常勤監査役	山元哲也
従業員数	234名（2007年6月30日現在）		監査役	吉田修平
取引銀行	山陰合同銀行／広島銀行／三井住友銀行／みずほ銀行／三菱東京UFJ銀行／三菱UFJ信託銀行		監査役	生田目崇
				（2007年9月27日現在）

株式会社 エム・エイチ・グループ

事業内容：美容サロン「モッズ・ヘアジャパン」運営
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-11-1 03-3470-0307



BNX株式会社

事業内容：アパレルブランド「ジョリーブティック」運営
東京都港区南青山3-3-3 03-5786-1321
リビエラ南青山ビルB館6階



事業年度	毎年7月1日～翌年6月30日
定時株主総会	9月下旬
同総会議決権行使株主確定日	6月30日
期末配当金受領株主確定日	6月30日
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同送付先・連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711（フリーダイヤル）
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
公告方法	電子公告により、当社ホームページ（http://www.big-group.co.jp/）に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主の皆様のお声を聞かせてください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社は、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ですが、右記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 9439

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、
いいかぶ と4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間（2007年11月30日まで）です。 [この回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます](#)



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。（株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900 MAIL:info@e-kabunushi.com

13

14